

十九
二一

發行
の經利行
払過行
込利價
み子率格日

に金加郵年額平す額の振
払額え政〇面成るの記替
いを、事・金十。整載法
込第次業三額五
む十の庁パ百年
も八算長一円二
の号式官セに月
とにはンつ二
する規よ、トき十
定り払百五
す算込円日
る出金六
期し額
日たに

八七六五四

振額最払發
替低込行
額行單
面金方
金額額法

五二額郵機用「成社条二財回利
万千便關を振十債第十政付
円三金貯は受替三等一六融
百額金日け法年の項年資
一で資本る「法振法資
億二金銀もと律替律金
三千に行のい第に第特
千三よととう七關百別
八百るすし。十す一會
百億引る、の五る号計
万円受。そ規号法
円けの定。律第
振の以。律第
替適下平一和

三二一

用振の法發號名
等替條律行稱及
法項及の
のび根
適そ拠記

三月おり十五
五月告日第十七
七月告示第十九
財務日示に第
大蔵大臣す發行
塩川正十郎
行省令第
昭和二十
利定付に五
国基づ七十
債の発行大
行平蔵

$$\frac{\text{額面金額の総額} \times 0.3}{100} \times \frac{67}{365}$$

+
—

初期利子

平成十五年六月二十日を支払期に算出しあるとき以降の金額を支払う。式により算出しあるとき以降の金額を支払う。次に算出しあるとき以降の金額を支払う。

額面金額 × $\frac{0.3}{100} \times \frac{1}{2}$

十四

後 第
の 二
利 期
子 以

十 十 十
八 七 六 五

払 払 元 償 償
込 場 利 還 還
期 所 金 金 期
日 支 額 限